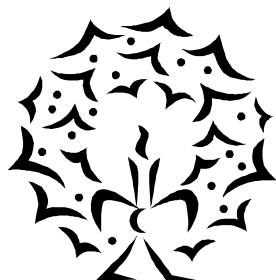


カトリック六甲教会 教会報

2010
12
No.468

「ありがとう！」



主任司祭 松村 信也

自民から民主へ機長交代して、早一年になろうとしている。しかし、いまだ不況の風は止むことなく、解決の糸口さえも見えない超低空飛行のまま、何とか飛んでいる日本機である。いつになったら十分な燃料と体力を得て、世界の空へ旅立てるのか。

日本の経済不況は、経済至上主義とその経済至上主義がもたらす数々の社会悪の結末でもある。現代社会に蔓延する種々の問題、それら諸悪の根源は、経済至上主義から来ていると言っても過言ではない。

なぜなら経済至上主義の損得、勝ち負けの価値観は、人間性を育むどころか自己中心的な考えを増長させ、無関心・無感動を養い、人間の心を荒さみへと導く。また、先人の培ってきた素晴らしい社会の伝統を踏みにじり、人間にとって忘れてはならない“大切な感謝の心”まで取り去っていく。社会環境汚染は、「聖職者（教師・医者・僧侶）の墮落」から始まったと世間で言われる。確かに、その批判は免れない。しかし、聖職者をも巻き込んでいくのが、経済至上主義なのである。人間の欲と野望が、長年に渡って複雑な問題を作り上げ、弱い立場の人々にとって、先行き見えない不安な生活を強いられている。

毎年、年末、クリスマスを迎えるたびに「戴いた恵みを貧しい人、困っている人と分かち合いましょう」と祈るあの言葉は、虚言なのか。お決まり文句は、実態とは関係のない口先だけの心地よいフレーズなのか。だとすればキリスト信者であっても経済至上主義に巻き込まれた一人ではないだろうか。

新たな年、あなたはどのようにするのですか？新たな年もまた変わらないのですか？

私たち六甲共同体は、新たな年に向けて新たな地区割に基づく活動計画を歩み始める。それは地区の活性化と同時に各地区における地域との“つながり”をより濃密にすることを目標に再出発するのである。したがって、共同体にとって新しい特別な年を迎えることになる。それはまたキリストの望まれる“いつも新しい人”に生まれ変わることでもある。新たな年に向かって、新たな気持ちで、新たな“つながり”を培って、一人ひとりがさらにキリストに似るものとなることを実践する。その為には例年通りの“そのつもり”ではなく、また周りが変わるとか変わらないからとかを判断基準にするのではなく、先ず、“わたし自身”から変わることが大切である。確かに私たちは、独りで生きている。しかし、今日まで生きてこられたのは、沢山の方々の“おかげ”によって生かされたことを忘れてはならない。

人は目に見えない“おかげ”に感謝することによって、人としての命を生かさせて戴く。それは「あたりまえ」のことなのである。しかし、「あたりまえ」だからといって、そのご恩を忘れてしまったのでは人として生きていけなくなる。難しく考えることはない。誰にでもできることである。その「あたりまえ」に対して、心から「ありがとう！」の感謝の言葉を伝えるのである。この一言

造から神の愛の表現が見られる。(知 11:24~12:1) 知恵の書は、神の冷たさの中から神の慈しみを感じ取る。

- ② ノアとの契約；
人間だけでなく、すべての生物との契約。(創 9:9~13)
- ③ 知恵文学；
神の知恵はすべての人の心の中に見られる。(知 7:24~27,8:1,シラ 24:5~6)

3. 新約聖書の中から見る。

(1) 包含的な考えの箇所を見る。

- ① 神のみ言葉はすべての人を照らす光。(ヨハネ 1:1)
- ② パウロは排他的思想の誤解を無くすために書く。(ロマ 7章)
- ③ 神はすべての人間を救われ、すべての人間が真理を知るようになることを望まれる。神は唯一であり、神と人間の仲介者であって、すべての人のためにご自身を捧げた。
(1テモテ 2:1~5)

4. 第二バチカン公会議の公文書から見る。(第二バチカン公会議では、これまでになかったキリスト教以外の人々の救いについて述べる。)

(1) 教会憲章 16 項：神の方からではなく、人々の方からその問題を取り扱う。

福音をまだ受け入れていない人、すべての人に対して神は救いを望んでいるので、これらの人々から決して離れていない。神を誠実な心で探し求めている人々は、その恵みの影響で永遠の救いを得ることが出来る。神はそれらの人々を拒否することはあり得ないからである。(無神論者であっても、落ち度がないならば、可能性は十分にある。)

(2) 現代世界憲章 22 項：イエス・キリストは神の愛を啓示し、希望を持って復活へ。

キリストはすべての人々のために死んだ。それはすべての人々が神の命に与るためである。聖書はすべての人にキリストの受難の神秘に与ることを可能にする。このイエスの死と復活によって、人間が神の命に入ったのである。貴重なものが諸宗教の中にある (92 項)。

(3) 宣教活動の教令 7 項：信仰がなければ、神に黄泉されることはない。信仰の絶対性が述べられるが、キリストを知らない人々も、神の恵みによって信仰を得ることが出来ます。ここから諸宗教の中に働かれる神の恵みが知らされる。

(4) 「諸宗教宣言」：

- ① 諸宗教に対する好意的なアプローチ→根本的人間の問に対する答えは諸宗教である。教会は諸宗教に見られる聖なるもの、正しいものを排斥しない。教会のものと違っていても、教会は尊敬を持って見る。したがって、第二バチカン公会議は他宗教との対話を勧めている。
- ② 「宣教教令」 インカルチュレーション→神の言葉は種子のようなもの、それは土の中に落ちたら、そこから色々なものを吸い取り、自分に同化する。だから教会は、すべての民族の中にある。……すべての民族にも宝をもたらす。聖霊は教会以外の所にも働いておられるからである。

(5) エキュメニズム教令 2 項：すべての人を照らす光。

(6) 司祭養成教令 16 項：真実で善い諸要素がある。

5. ヨハネパウロ II 世の「レデンプトリス・ミッシオ」は、「他の諸宗教間の対話は、福音化を進める教会の使命の一部です。相互に知り合い、豊かにし合う手段や方法として理解されている対話は、諸国の民に宣教する使命と対立するものではありません。事実、対話は教会の使命と特別な繋がりを持っており、その使命の表現の一つです」と記述する。

主任司祭 松村 信也

信徒会館リフォームのお知らせ

★工事期間：2010年12月13日（月）～2011年3月9日（水）

★対象：信徒会館1階と2階の一部（教会報11月号に掲載した図面を参照）

★工事期間中のお願い事項：

- ① 駐車場の一部を工事関係者が使用しますので、工事期間中はなるべく公共交通機関をご利用下さい。
- ② 信徒会館2階は12月13日（月）から2011年1月14日（土）まで立ち入りできません。
- ③ 信徒会館1階は2011年1月から竣工まで立ち入りできません。
- ④ 信徒会館の階段は工事期間中使用できません。聖堂棟階段を使用してください。
- ⑤ 1月から3月工事終了まで事務所は現在の教会学校リーダー室に仮に移転します。
- ⑥ 工事の時間帯は、平日及び祭日の8:00～18:00で、土、日曜日はお休みとなります。

工事が始まれば、何かとご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。
また工事の進捗状況や注意事項などはその都度、週報や聖堂入口掲示板でお知らせ致します。
ご注意ください。

信徒会館リフォームチーム長 蛭田



第52回神戸市民クリスマス キャロリング in KOBE

☆ 日 時：2010年12月17日（金）17時～

☆ メイン会場：日本聖公会 神戸聖ミカエル教会（兵庫県庁西隣り）

☆ プログラム：

1. キャロリング（17:00～18:30）

★★★ 北野コース ★★★

17:00 北野町広場 → 17:15 神戸バプテスト教会 → 17:30 カトリック神戸中央教会
→ 17:50 JT神戸支店前 → 18:10 日本キリスト教団神戸栄光教会
→ 18:30 日本聖公会聖ミカエル教会 着（他に元町コースもあります。）

2. 子どもプログラム（17:00～19:15） 神戸聖ミカエル教会 集会室にて
「スライド芝居」他、楽しい企画があります。

3. ほっとタイム（18:00～19:15） 神戸聖ミカエル教会 集会室及び中庭にて
温かい飲み物、ケーキ、クッキーなどを用意しています。

4. 祈りと祝福のとき（19:30～20:30） 神戸聖ミカエル教会 大聖堂にて

5. 青年のつどい（20:45～21:45） 神戸聖ミカエル教会 集会室にて



多数ご参加下さい！！六甲教会は「北野コース」に参加します。集合は北野町広場に17:00前です。

「愛」 あなたの思いやりを届けよう！」



去る11月7日に秋のチャリティーバザーを開催いたしました。当日の朝になり、小雨模様になり少し心配いたしました。ところがすぐに青空が広がり、清々しい秋晴れとなりました。子供達のかわいらしい売り子さんを筆頭に、各売り場では楽しげな賑わいを見せていました。

お御堂ではパイプオルガンの体験会を行い、多くの方が見たり、聞いたり、触ったりしてより身近にパイプオルガンを感じられたのではないのでしょうか。

また、今年はお手伝いに地区会の方々に入って頂き、他の部会の方々と協力して販売を行いました。今年のチャリティーバザーも皆さまの愛に支えられて盛況に終えることが出来ました。皆さまから頂いた大きな「愛」と「思いやり」を困っている方々へ届けて行きたいと思っております。

(行事部 川崎)



<オルガン体験コーナー>

聖堂ではオルガンを身近に感じていただくための体験イベントを行いました。今年初めての試みには、教会内外から4歳から60代(?)の大人まで、50人以上の方が参加。中にはこのイベントを目指してバザーに来られた方もおられ、私達もオルガンに興味を持っておられる方の多さに驚きました。

普段は聴くだけのオルガンですが、近くでオルガンを見ると「意外と鍵盤の数って少ないのね」「鍵盤の黒と白が反対だね」「レバーは少ないね」など数々の発見の声が上がります。オルガニスト三浦さんの案内で、いつもは見られないオルガンの裏側を探検し、実際にパイプに手を当てて空気が流れる様子を体験。「すご〜い！風が出てくるよ」と子供の歓声。わかりやすいオルガン構造のミニ講座には、子供たちだけでなく大人も身を乗り出して内部をのぞきこみ、興味深そうに耳を傾けていました。

さて、お楽しみの体験コーナーでは、参加者全員がオルガニストです。バッハやベートーベン、学校の音楽会で最近披露した曲など様々な曲をいろいろな鍵盤を使って演奏しました。中には♪猫ふんじゃった♪のアンサンブルあり、また聖歌の親子共演ありとほのぼのとした時間が持てました。参加者の中には、「実際に見学し触れてみてオルガンが身近に感じ、これからも練習してみたいです」という声も聞かれ、オルガニストの卵発掘にも一役かったようです。最後に参加者は記念として音楽の天使セシリアの御絵をいただきました。セシリアが音楽で祈りを捧げたように、オルガンを通じて音楽で一つになれた和やかなひと時でした。神に感謝

(オルガンチーム 清水)



<三浦さんのミニ講座>



<パイプに触れる子供たち>

<行事報告>

∞∞∞∞ **七五三の祝福 (11月14日)** ∞∞∞∞



先日、元気に七五三の祝福を受けさせていただき感謝しております。
早いもので我が家の末娘は7歳になりました。小さい頃は人見知りがひどく、教会でも、兄たちの学校、幼稚園でも誰かに声をかけられる度に泣いていました。そんな娘も小学生になり、学校でも、教会学校でも、先生、リーダー、たくさんのお友達と楽しく過ごしているようです。そんな姿を見て、成長したなあと感謝する毎日です。

小さい頃から家族だけでなく、教会の多くの方々に見守られて育ってきた我が子たちは幸せだと思います。

これからも神様からのお恵みと皆さま方の見守りのうちに、多くの人に愛される子供に成長してくれることを願っています。
(佐藤)



<行事報告>

∞∞∞∞ **車椅子講習会 (11月14日)** ∞∞∞∞

11月14日「グループやすらぎ」秋本菊江さんに操作の注意点など講習していただきました。20名足らずの参加でしたが、初めに「元気なうちに介助される体験して下さい。」とお話され、私たちも乗ってみました。20～30センチの段差も一人で上げることや、坂道はバックすること、地道の走行の仕方など、実際やってみました。乗っているほうは、結構こわいということや、歩いているときは気がつかないくらいの段差も、全部感じられ、介助するときの気配りも体験しました。知らなかったことも多くあり、大変有意義な講習会でした。 (社会活動部 C. K)

車椅子の講習に参加して

11月14日、日曜日ミサ後、イグナチオ・ホールにて“車椅子操作の講習会”が行われた。

講師は神戸市灘区市民グループ「やすらぎ」から派遣された秋本菊江さん、そして参加した有志十数名で講習会が始まった。参加した方の大半は、車椅子を押した経験の持ち主であったが、車椅子に乗ったのは初めての人ばかりでした。

誰でも車椅子なんて押せば良いと考えられるでしょう。実は参加した有志全員、同じ思いでした。ところが車椅子に乗せられて初めて、操作の大切さを学びました。

まず、第一に力任せに車椅子を押すのではなく、テコの応用をしながら楽に操作することによって、押し手も乗り手も安心できること。第二は、乗られる方は身体の不自由な方あるいはご病気の方であり、体の平衡感覚を保つことが難しい。そこで車のバランスを考慮しながら運転する。決して、乗る方に不安を与えるような力任せの操作をしない。例えば、力任せに凸凹道を押したり、曲がったりしない（転倒する恐れがある）。第三は、わずかに傷んだ道路上を運転する場合、テコの応用から後輪軸をステップし、車椅子の前輪を少し持ち上げる。そして押し手の体に車をもたれさせたまま、ゆっくり押すと押し手も乗り手にも殆ど振動なく運転できる。また特に、乗り手にとり車酔いすることもなく、安心して乗れる。第四は、急な下り坂を降りるときには、押し手が車椅子のハンドルを持ったまま背中向きに斜面を降るのではなく、車椅子を押し手の背・腰に当てて前向きに斜面をゆっくり降る。第五は、段差のある場所を登るときは、テコの応用をしながら前輪を先ず階段の上に上げたら、押し手は車椅子に体をくっつけて両ハンドルを持って段差を登る。降りるときは、後ろ向き（背中向きではなく）になって後輪から降りる。その他、種々のケースの操作もあり簡単なようで意外と知らなかった今回の車椅子操作の講習会であった。

今回参加できなかった皆様にも是非、また機会がありましたら車椅子の操作を体得されることをお勧めします。短い時間でしたが、参加した有志全員十分満足した講習会であった。神に感謝

講習会に参加した有志



<行事報告>

∞∞∞∞∞ 諸死者の記念ミサ (11月23日) ∞∞

六甲の山々も色づき始めた秋らしいさわやかな今日、援助修道会主催「諸死者の記念ミサ」がマシア神父様司式により六甲教会の御聖堂で150人ほどの方たちが集い、とり行われました。

「ふるさとである天に、いのちの源に帰った私たちの大切な家族、友人たち。終わりの日に永遠のいのちに生まれ、神に迎えられると信じて亡くなった彼らの生涯を感



謝し、神の慈しみを願いましょう。」とのマシア神父様の祈りのことばをしみじみと味わい、帰天された方々へ思いを馳せ、神の慈しみと永遠の安らぎを願い、光の中で憩わせて下さいますよう祈りました。

そして、祈りを込めて書かれた、亡くなった方々の名前の入った箱を奉納し、信者・信者でない方たちと共に分かち合いのうちに神の祝福を受けました。

今は隣にいない近い人のお顔をおひとりおひとり思い出し、なつかしさに会いたい思いが募りましたが、同時に、信頼を持って御旨に従う私達は、別離の悲しさを神の御国で再会することへの希望とすることができる喜びを感じました。

心のこもりましたお茶会でなごやかに思い出を語り合う場を毎年用意して下さる援助修道会のシスター方に深く感謝申し上げます。
(藤井)



各 部 だ よ り

青年会

12月12日(日) 定例会 お休み
12月19日(日) 青年会クリスマス会
18時～ イグナチオホールにて
皆様ご参加ください。
12月26日(日) 定例会 お休み

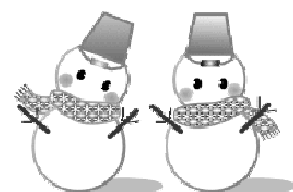
教会学校

12月4日(土) 通常クラス
12月11日(土) 通常クラス
12月12日(日) 子どもと共にささげるミサ
12月18日(土) 通常クラス
12月19日(日) 10時ミサ後クリスマス会・終業式
※始業式は、1月15日(土)です。

《 お知らせ 》

★社会活動部より★

12月1日(水) 10:00 手芸の集い (第1・2会議室)
どなたでも参加ご自由です。
12月19日(日) 10時ミサ後 ミニバザー (イグナチオホール)
お弁当・食料品・手作り作品等の販売
12月23日(木)・24日(金) 9:30 ともしびケーキづくり (お台所)
※今月の炊き出しはお休みです。



越年越冬の炊き出し

12月28日(火)～1月5日(水)
例年通り 東遊園地にて
10時～

カトリックの当番日は1月1日と5日の予定です。

チャリティーコンサート

12月4日(土)13時～
カトリック神戸中央教会にて

野宿者支援のためのコンサートです。
たくさんご参加ください。



「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」 Nun komm den Heiden Heiland

待降節の音楽について少し書いてみたいと思います。このコラール(ルター派の賛美歌)を使って J.S.バッハは待降節第1主日のためのカンタータを作曲しました。このコラールのもとになったのは、ミラノのアンブロジウスによる、聖歌「来ませ、異邦人の贖い主よ」Veni, Redemptor gentium です。

賛美歌 21 による、日本語訳は、次の通りです。

**いま来たりませ、救いの主イエス、この世の罪をあがなうために。
きよき御国を 離れて降り、人の姿で御子は現れん。
みむねによりておとめに宿り、神の独り子 人となりたもう。
この世に生まれ、よみにもくんだり、御父に到る道を拓く主。
まぶねはまばゆく 照り輝きて、暗きこの世に光あふれぬ。**

このメロディーを使って J.S.バッハは何曲かのコラール前奏曲(コラールのメロディーを使ったオルガン曲)を作っています。その中でも、特に有名なものが2つあります。BWV599, オルガン小曲集第1番と、BWV659、バッハが若い頃に書いたものを最晩年に手を入れて編纂した 17 のコラール集の中の曲です。2曲とも本当にきびしい曲です。それは、喜びの日を待つための物でありながら、とても内省的なのです。”オルガン小曲集” Orgelbüchlein (短いコラールが 46 曲、教会歴にそって作曲されている。)の第1番、どの節も上から下へ降りて行く音型で、降誕を表していますが、曲全体が十字架の音型と言われる(例えばレミンド、などの形)音型で覆い尽くされているのです。

そして、BWV659, こちらはペダルにずっと、重い歩みのような進行が続きます。救い主が人の罪を負って、受難まで続く歩みを表しているようです。その歩みの上に、美しく装飾されたコラール旋律が奏されますが、そのメロディーの中身も、嘆きのモチーフがちりばめられているのです。

また、グレゴリオ聖歌の主の降誕日中のミサの入祭唱の交唱の中に、

**”Puer natus est nobis, ひとりのみどりごが私たちのために生まれた。
et filius datus est nobis: ひとりの男の子が私たちに与えられた。”**

と言う節があります。この中の、datus と言う言葉には、単に与えると言うよりも、与えつくす。と言った意味があるようです。

キリストは神の身分でありながら神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。(フィリピ 2:6-8)

これらの音楽は、キリストの誕生は十字架への道の始まりであると言うことを、はっきりと表しているようで、毎年、典礼歴の初めであるこの時期にこれらの音楽を演奏する時、身の引き締まる思いです。

待降節中の、ミサの前奏に上記の曲を弾かせていただく事があるかと思います。思いを共に、耳を傾けていただければ幸いです。

<演奏予定>

BWV599: 12月5日(日)10時ミサ前
BWV659: 12月4日(土)19時ミサ前、24日(金)19時ミサ前
Puer natus est nobis: 12月24日(金)19時、21時ミサ前



(オルガン奉仕者 三浦)



みんなの広場

宣教とは

今は戦前派の信徒はいなくなった。わたしのような戦中派の信徒も残り少なくなった。

1930年代からこの国の思想は偏狭な国粹主義へ走った。その社会の中にあつてカトリック信者として信仰を守り生きるためには、かつての隠れキリシタンの日常を体験せざるを得なかった。信仰を公に表すことはできない、社会が組織化されその外に出ることもできなかった時代、何かと言えば呼び集められ、神であるとされた天皇の居城宮城遥拝や神社参拝が強要された時代に、周囲と共に頭を下げながら心の内では、宮城でもなく神社でもなく「天地の創造主全能の父」に頭を下げ祈っていたのであった。

司祭でありイエズス会員であつた故武宮隼人神父が、校長として周囲の、時には修院の中からも批判を受けながら、軍服帯刀姿で宮城遥拝の号令をかけ、修身の授業で教育勅語を講じていた時代、その授業の中で天地の創造主である神もイエスの御名も全く口からは出なかった教育、その学校の生徒と家族の中から毎年何人かの受洗者があつたと言うことは、さらにその教育の影響を最も強く受けた六甲学院1期から5期の卒業生の中から、後に6人が司祭の召命に応えたという事実は宣教とはどういうものかを端的に示していると言える。しかもその6人の中に2人は大阪教区の司祭である。

この時代に受洗した信者が戦後の爆発的な教勢の発展の基盤になつたが、そこに大きな落とし穴があつた。それが今、露呈しているのではないか。

今、ことごとく宣教が云々されている。かつての殉教者が賞揚されている。しかしその殉教者たちが猪突猛進的に殉教に走つたのではないことが忘れられているのではないか。彼らは社会の中に、その日常の中に隠し隠れて信仰を守り続けたのであつた。最後に隠れ果たせられなくなってはじめて地上の生を捨てて信仰に従つたのであつた。その隠れキリシタンたちが、その環境の中にあつて、生前ごく少数であつたとはいえ異教徒を信仰に導いたことも忘れてはならない。隠れキリシタンと武宮神父の業績には相通じるものがあると思われる。

宣教は教会の外に向かつてするもの、宣教者が教会の中に閉じこもつては成果は得がたい。教会の外に、伝えるべき社会の中にいなければ伝えることはできない。

わたしも現役時代、カトリック学校の職員であり、カトリック信者であるが故に、それが明らかになると村八分的な経験をするのが少なくなかつた。今の社会も戦前の社会から根本的には変わっていない。この社会の中にあつて宣教はどうすべきか、単なる理念ではなく社会の現実一つ一つに対応して何を為すべきかを考えなければならない。ロヨラの聖イグナチオは霊操第1週の冒頭に「人間は、そのものが自分の目的を達成する上で助けとなる度合いに応じて、それらを用いる必要があり、妨げとなる程度に応じて、それらを放棄しなければならない」。また「われわれが創られた目的へよりよく導くものだけを好み、選ぶべきである。」(門脇佳吉訳 岩波文庫 1999年)と教えている。この勧告はどのように宣教するかを考えるときに、心しなければならぬ勧告であると思う。(三好)

2010年クリスマスと2011年年始のミサの時間について

12月24日(金) 夜半のミサ

16時半、19時、21時 海星病院 17時

19時と21時のミサが始まる前に、今年も聖堂内でキャロリングをします。

開始時間は、 19時ミサの前: 18:20頃 ~

21時ミサの前: 20:30頃 ~

歌とオルガン演奏を聴きながら、夜半ミサの始まりを待ちましょう。



12月25日(土) 主の降誕

7時 (早朝のミサ)、10時 (日中のミサ)

この日の19時ミサは、「聖家族」のミサです。

1月1日(土) 神の母聖マリア

0時、7時、11時

この日の19時ミサ (主の公現) は、ありません。



1月2日(日) 主の公現

7時、10時

典礼部

<訂正>

教会報11月号「みんなの広場」の文中に誤りがありました。

【誤】現在29カ国122コミュニティに → 【正】現在40カ国137コミュニティに
ここに訂正をし、お詫び申し上げます。



広報部員のつぶやき

家でこの教会報の編集作業をしているとき、TVからニュース速報の音が聞こえた。「北朝鮮が韓国を砲撃」。近頃、日本の周辺で穏やかでない出来事が続いている。戦争を知らない者の想像に過ぎないが、こうした日々の出来事や様々な要因が積み重なって、知らず知らずのうちに、大きな戦争に巻き込まれて行くのではないか。平和ぼけの現代日本の日常を生活している私にも、さすがに不安がよぎる。世界では今年もまた紛争の絶えない年であった。待降節に入り、主の降誕を迎えるにあたって、月並みではあるが、ただ「世界平和」を祈る。

FadA

教会報1月号の発行は、12月26日(日)です。

編集会議は12月19日(日)です。

記事原稿は、12月12日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。 (広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電 話 078-851-2846

F A X 078-851-9023

発行責任者 松 村 信 也

編 集 広 報 部